カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

「教会の母聖マリア」制定

教皇庁典礼秘跡省は、本年2月11日（ルルドの聖母出現160周年）付の「教令」をもって、一般ローマ暦の聖霊降臨の主日後の月曜日に「教会の母聖マリア」の記念日を記載することを定めた。本年は5月21日（月）に祝われる。

長崎と韓国の教会を結んで

テグ教区から派遣のキム新司祭、浦上教会で叙階

3月21日（水）10時30分から浦上教会で、高見三明大司教主司式、90人以上の司祭団の共同司式、多くの修道者・信徒らの参列のもと司祭・助祭叙階式が行われた。

叙階されたのは、韓国・テグ大司教区のシンピョン教会出身、キム・ボム新司祭（右の写真）と桐教会出身の宮原大地新助祭。キム新司祭は神学生時代にテグ大司教区から長崎大司教区に派遣され、養成を受けていた。このたび司祭に叙階され、長崎大司教区で今後10年間働くことになる。宮原新助祭は新学期から再び、日本カトリック神学院東京キャンパスで司祭叙階に向けての最終的な養成期間に入る。

叙階式ミサの前に行われる教話は、浦上教会の久志利津男主任司祭が務めた。韓国から来日した受階者の家族と関係者ら巡礼団一行を前に、久志師は「ヨロブンアニョハセヨ（みなさんこんにちは）」とのあいさつに続き韓国語で教話を始め、浦上訪問に対する歓迎とまもなく新司祭を迎える喜びとを皆で分かち合う時間となった。また、日本語でも教話をし、「司祭も基本は一社会人であり、規律を守り、礼儀や作法にもよく気を配って、皆の尊敬を受ける司祭を目指してほしい」と諭した。

ミサには、テグ大司教区からチョ・ファンギル大司教をはじめ秘書室長、キム新司祭の同級生の司祭ら、また先述の巡礼団40人余、さらに東京大司教区・習志野教会の約20人の巡礼団、そして浦上教会に集まったすべての人が新司祭・新助祭の誕生を祈りのうちに見守った。

叙階の儀の初めに、チョ大司教が高見大司教にあてた叙階式を執り行う委任状を、教区書記官の川原昭如師が代読し、その後、高見大司教により式が進められた。叙階の儀が終わると新司祭は祭壇へと向かい、ミサの奉献文を唱えた。チョ大司教はミサの終わりに、「自身の教区で何度も叙階式を執り行ってきたが、今回委任して叙階式を見守ることが最も緊張した」と安堵した様子で語った。

全体の司会進行が日本語と韓国語で行われ、二つの教区の結びつきが感じられた今回の叙階式。長崎教区の司祭は、「チョ大司教様の言葉から『子を見守る親』そんな思いが伝わってきた。今日与えられた叙階の秘跡の恵みが日本と韓国双方にとっての喜びとなり、新司祭の誕生が両国の懸け橋になるきっかけとなればすばらしい。長崎教区にも召命の門戸が多様な方向に開かれつつあり、教区の神学生、司祭の交流も国籍を超える可能性が見えてきた。変化を予感させる出来事も受け入れつつ、『交わり、宣教する長崎教区』の姿を目指していきたい」と話していた。

テグ大司教区のチョ大司教（左）と高見大司教の二人から抱擁を受けるキム新司祭

シンピョン教会の巡礼団の皆さん。右奥からキム新司祭の父キム・クァンジュンさん、母クォン・ジョンジャさん、妹キム・ミレさん。

ミサ後、キム新司祭の母、クォン・ジョンジャさんにお気持ちをうかがった。

「（キム新司祭が）テグでも長崎でもどちらにいても、神にささげられた者として一所懸命にはたらくことができればいいと思います。長崎教区の助けになるような存在、空気のような司祭、貧しい人や小さな人を気遣い、人を愛する司祭であってほしい。ボムという名前は、『春』を意味します。春になると、あらゆるものが生き返っていくような生命力、〝再創造〟されるような感じを受け、その思いを込めて名づけました」

3月16日（金）には浦上教会で選任式が行われ、青田憲司（浦上）、稲田祐馬（八幡町）両神学生が祭壇奉仕者に、西田祐尚神学生（飽の浦）が朗読奉仕者に選任された。また、コンベンツアル聖フランシスコ修道会の外山祈（赤羽）、中野里晃祐（相模原）、峯勇太郎（福江）、今井裕次郎（岡山）の各神学生も朗読奉仕者に選任された。

司祭のために祈る

聖香油ミサと感謝式

3月27日（火）10時30分から浦上教会で聖香油ミサが行われた（写真）。このミサは、祭司職が一つであること、いけにえが一つであること、神の民全体が一つであることを適切に表現するため、共同司式で行われ、そのミサの性格から多くの人々の参列が望まれている。

当日は高見三明大司教がミサの主司式を行い、90人以上の司祭団が共同司式をし、多くの信者らが共に祈りをささげた。祭司職の制定が記念される聖木曜日（長崎教区では毎年、火曜日に行っている）の聖香油のミサにあたり、高見大司教は説教の中で、聖別・祝別される油について説明するとともに、神に似たものとなる司教・司祭が、愛といつくしみのわざを行って聖性を示していかなければならないと触れ、信徒に対しては「奉仕する者として召されている司祭には神様の恵みと皆様方の支えが必要。司祭のために祈り続けていく決心をお願いしたい」と呼び掛けた。

ミサの終わりには、司祭叙階から50周年と25周年の節目「金祝」「銀祝」を迎えた司祭らと、3月21日に叙階されたばかりの新司祭が紹介され、感謝の花束が贈られた。

連載企画（全5回）

浦上村総流配〈旅〉の150周年 ―第2回

純心聖母会　片岡千鶴子

〈旅〉の記憶の継承

二、記念碑の建立、記念行事による継承

㈠ 記念碑「信仰の礎（いしずえ）」

1920年、〈旅〉の50周年を迎えました。その6年前に浦上天主堂が、未だ双塔部分を残したままでしたが、着工から19年を経てやっと落成していました。大声でオラショを捧げる神の家を建てることは「旅」の苦難を支えた夢でした。父祖たちは「信仰の礎」と刻んだ五段構えの〈旅〉の記念碑を、東洋一を誇る大天主堂の正面玄関前に設置しました。12月コンパス司教司式による感謝ミサと祝別式の後、記念碑の前に〈旅〉の生存者たちが集まった写真が今に残っています。

「信仰の礎」記念碑と〈旅〉から帰った浦上信徒ら

（長崎大司教区『一〇〇年のあゆみ』から）

㈡「信徒分謫（ぶんたく）記念碑」

1930年、〈旅〉の60周年を迎えた時「父祖の遺業を謝し、その面影と行跡を残して子孫の箴（しん）となさんがため」、生存者380余名の流配地別の集合写真と〈旅の話〉などで編集したアルバムを作成しました。早坂久之助司教司式による感謝ミサ後、浦上天主堂正面玄関前に設置した「信徒分謫記念碑」の祝別式を行いました。

流配60周年記念＝信徒分謫記念碑

（浦上教会前庭）

㈢ 被爆後の〈旅〉の記念行事

1945年の原爆投下で浦上天主堂は崩壊焼失し、記念碑、「信仰の礎」の文字を刻んだ最上段の石柱と十字架が爆風で飛び去りました。1948年〈旅〉の80周年記念を迎えた時、記念碑「信仰の礎」を修復し「旅」の生存者二十数名を迎えて感謝ミサが捧げられました。青年会による聖劇「信仰の礎」が公民館で上演され、被爆後の浦上復興に勇気と力を与えました。

㈣ 総流配〈旅〉の100周年記念

〈旅〉の記念行事を毎年続けるうち1969年100周年を迎えました。里脇浅次郎大司教司式のもと13名の浦上出身の司祭による共同ミサを浦上天主堂で捧げ、国際文化会館講堂で〈旅〉をテーマの聖劇「浦上キリシタン」を上演し、公民館では「キリシタン展」を開催しました。1962年に杉本ヤスが永眠し100周年記念を迎えた時は〈旅〉の生存者はもういなくなっていました。「当時をしのぶよすがが」とするため60周年記念に作成していたアルバムを復刊して各家庭に配布し、〈旅〉の記念行事を一区切りしました。原爆の炎をくぐった〈旅〉の二つの記念碑は今もなお、設置当時の姿のまま私たちに父祖の信仰を語り続けています。

ほしかげ

光を当てると影ができる。光の当たらないところでは影すら気にならない。15冊ある当小教区の洗礼台帳、せめて洗礼番号くらいはフリガナ検索できるようにと、最新の6141番からデータベースを作成し、ようやく1000番、およそ1000年前の受洗記録までこぎつけた▼ここまで来ると記録が始まった1番まで入力といきたいが、100年以上前の記録をコンピュータ化して意味があるのかという思いもある。ただ、乗り掛かった舟。今着手しなければおそらく完成しない。だが入力中、力不足のため読解できない文字に行きつく。【Eodem dii obiit】ラテン語を読めない悲しさである。結果的に備考欄を設け、そのまま書き付けた。ほかにもラテン語で記載された注を先輩に問い合わせたこともあった▼作業の意味や価値に疑問を感じていると、「先祖の洗礼を調べてください」と求められ、すぐに対応できたことをいたく感謝され、勇気づけられる日もあった。思わず台帳を二度見する場面もあった。ある人にある番号が割り振られ、次の人にも全く同じ番号が振られている。解決しなければならず、主任司祭の責任で該当する番号にAとBを書き加えた▼巡回教会が独立していくような「母教会」は、特に問い合わせが殺到する。即座に対応するため、教区は人材とお金を投入してでも記録をコンピュータ化すべきと考える。（輝）

Synod 2018　Youth, faith and vocational discernment　「若者」をテーマにしたシノドスに向けて

教会はいつも新しくなる ⑤

若者たちとともに生きる

純心聖母会　Sr.木村百恵

２０１８年10月。「若者、信仰、そして召命の識別」をテーマに世界代表司教会議（シノドス）第15回通常総会が開かれます。それに先立ち、バチカンから「準備文書」が出されました。この文書は、世界を見渡して書かれているものですが、当然、長崎の若者たちにも当てはまると思われます。そこで、日頃若者たちと向き合っている本会のシスターたち（川上眞理子、佐古照美、坂本久美子、木村百恵）で「準備文書」に基づいて分かち合いを行い、若者の現状と若者に関わる私たちの課題を見つめました。

一人ひとりに与えられた召命

「召命」と聞くと多くの人が司祭や修道者の召命という印象を持つことでしょう。しかし、召命は司祭・修道召命に限らず、一人ひとりが神から受けている使命です。若者たちは、その使命を探し、どのような生き方が自分らしいのかともがきながら生きています。

子どもへの召命の種まき

教会学校では、子どもたち一人ひとりに神から与えられる役割があることを知ってほしいという思いから、将来は父親や母親になりたいのか、司祭、修道者の道を選びたいのか、あるいは、結婚せずに社会のために役立つ人になりたいのかなどを問いかけ、将来について考えるよう促してきました。召命の種まきにかかる時間も、選び取る基準も各々様々です。

子どもたちへの召命の種まきの後、実りを実感するのは、彼らが成人した頃です。たとえ彼らの召命の選びが私たちの思いと異なっていても、彼らが心から喜んでいる姿に、その選びでよかったのだと安心します。

しかし、いつしか教会で姿が見えなくなってくると、彼らがどのような環境の中で、どのような人と出会い、どのような事に遭遇し、今、この時を生きているのかと大変気がかりです。

「本物（真理）」を求める若者たち

本会は、教育と福祉を通して教会と社会に奉仕することを使命としていることから、私たちは生徒・学生をはじめ、福祉施設の職員、学校や幼稚園の教職員など比較的若い方たちと向き合う機会をいただいています。その関わりの中で喜びもありますが、心配や焦りを覚えることもあります。中高生は部活や学業で精いっぱいであり、興味のあることには夢中になっても、それ以外には時間も労力も割こうとしない人もいます。若者たちの中には、ネット通信技術に過度に依存するあまり、人間関係が希薄になり、人との出会いを面倒なものに感じている人もいます。

しかし、一人ひとりに関わってみると、人生について真剣に考えていることがわかります。祈りの声が聞きたいからと聖堂に立ち寄る大学生。在学中や在職中には理解できなかった聖書の話が、時を経て、心に沁みるようになったと報告に来る学生や教職員。洗礼を希望し、修道会のホームページを頼りに連絡をしてきた卒業生。一人ひとりが、自分の置かれている立場でどのように生きたらよいかを模索し、神との関係性の中で捉えようとしていることが伝わってきます。

一方、若者には鋭い洞察力で「厳しい」大人と「冷たい」大人を見極め、評価している部分もあります。厳しくても情熱をもって指導してくれる人には信頼してついて行きます。彼らが社会の影響を受けているのは当然ですが、その中にあっても心の底では自分らしい人生を探し求め、本当に大事な何かを掴みたい、本物に出会いたいと願っているのではないでしょうか。

日本の教会の現状から感じること

若者の生き方が、過ごしてきた幼児期から青年期の家庭環境や社会の影響を受けていることを考えると、家庭や教育の大切さを実感します。心身の成長期に誰と出会い、何を体験して心を動かされるのでしょうか。どのような外的環境にも左右されることのない信仰は、信じる人にとっては心の拠り所であり、生き方の指針を示してくれるものでもあります。一人ひとりの信仰の歩みの中で、彼らが生きている環境を理解しつつ、寄り添ってくれる同伴者の大切さも感じます。

教会共同体は、若者の信仰を支える大きな存在です。日本の教会はその大切な使命を果たしているのでしょうか。洗礼や堅信後のアフターケアは十分でしょうか。教会学校の信仰教育の後、年代にあった深まりのある信仰養成を提供しているでしょうか。社会問題に対して積極的に活動しているでしょうか。

教会に集う私たちは、神に心から救いを祈り求め、神との出会いによって喜びや安心感で満たされたという具体的な神体験を生き生きと語ることができているでしょうか。信仰の喜びを味わい、自分たちの教会に魅力を感じ、それを証しできているでしょうか。若者たちの間では、信仰の喜びを語り合い、支え合う心のゆとりがあるのでしょうか。若者たちの教会での活動の士気を高めてくれるリーダーが、教会にいるのでしょうか。

共同体を作っているのは、教会に集うキリスト者一人ひとりであり、私たち修道者もしかり。責任は、一人ひとりにあることを自覚しなければなりません。修道者にも反省すべき点が多々あります。私たちは、若者が私たち修道者に何を求めているのだろうかと絶えず問い続ける中で、信仰の喜びを自ら生き、証ししているだろうかと度々自分たちの姿を振り返ります。

喜びをもって生きる

私たち若手の修道者にとって、信徒の方々や高齢の修道者と信仰や修道生活について分かち合う時間は、大きな恵みです。多くの若者にとって、祈りのうちに同伴してくれる人や、寄り添って共に考え、手本を示してくれる人の存在は大きな宝です。私たち修道者も、そのような存在になることを心から望んでいます。

現在、小教区でカテキスタとして小・中学生の信仰教育に生き生きと励んでいる信徒の方々がいます。教会から託された役割に対して、神から託されていることとして受け止め、自分の信仰を子どもたちに伝えようと積極的に学びを深め、挑戦しながら子どもたちと向き合っています。その方々の話から、信仰と情熱と喜びをもって自分たちの使命を果たしていることが伝わってきます。

一人ひとりに神から与えられたそれぞれの召命、それは信徒としての召命であったり、学生としての召命であったり、父親・母親として、また司祭・修道召命であったりと多様です。それぞれが神から与えられた自分の召命に気づき、勇気をもって応えることができるよう、聖霊の導きを祈り、心の奥深くで語りかける神の声に心を開いておくことが大切です。私たちは、こうして若者たちの召命の選びに寄り添い手助けすることができればと願っています。

私たちは、若者たちを知るために出掛けていく必要があります。教区で行われている青年たちの活動に参加させてもらうことも一つの方法かもしれません。また、教会学校で関わった子どもたちのために祈り、彼らを見守り続けることや新たな出会いを求めて若者の中に入り、共に歩むこともできます。

若者一人ひとりが神と出会い、本当に愛されていることを実感できることを願っています。そこから、彼らの中に神との親密さが生まれ、望まれている生き方を理解して選び取り、喜びをもって生きることに繋がっていくことでしょう。

夢と希望がたくさん詰まった若者の皆さん、神様が皆さん一人ひとりに託した召命に勇気をもって「ハイ」と答えてみませんか。一緒に歩いていきましょう。

進学・入学を祝う春

神学生・志願生は計８人

今春、進学した長崎教区の神学生および教区内の神学校・志願院に入学した者は以下の通り。

◆日本カトリック神学院
神学科２年〔福岡キャンパス〕
ナム・シジン
※テグ教区からの派遣
（テグ教区・サンモ）
哲学科１年〔東京キャンパス〕
ホン・チャンキ
（インチョン教区・ソサ）

◆福岡コレジオ
大学１年
森　翔真（太田尾）
日本カトリック神学院 志願生
廣田　学（鹿子前）

◆長崎カトリック神学院
中学１年
岩永剣世（けんせい）（神ノ島）
山下飛翼（つばさ）（黒崎）

◆お告げのマリア修道会
中学１年
竹内琴音（浜串）
高校１年
小田﨑遥（稲佐）

山内清海師講演会（第４回）

現代社会の間（はざま）に生きる〝神の沈黙〟

社会に潜む現実的・具体的な問題を浮き彫りにしてその核心に迫り、正しい生き方を模索したいとの思いから連続講演会を企画しました。

講　師　山内清海（長崎教区司祭、神学博士・哲学修士）
日　時　５月27日（日）14時30分～16時（14時開場）
場　所　長崎市立図書館多目的ホール（興善町１・１）
入場料　無料
主　催　ミカエル会
TEL０９５・８０１・２１５０（小畑）

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
•一般引越　•小荷物
•荒ゴミ捨て　•遠距離
•学生引越　•ピアノ運搬
24時間営業•年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)(代)847－7151
844－1420

交通誘導警備　常駐警備　イベント警備
（有）小田警備保障
警備員募集！
電話 095-856-6524　FAX 095-856-6523
長崎市横尾３丁目 31-15　代表取締役 パウロ　小田　睦

注文家具の店　家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台
かおり
佳織木工所
kaori-mokkousho.com
《家庭祭壇ギャラリーOPEN　パンフレットもございます。》
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956（23）1867
代表 ラウラ・ビクーニア 濱口　佳織

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売
たつみ産業株式会社
西田商事株式会社
代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社　〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL（0956）31－8268

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町 6-17　岩永ビル

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリードホール・典礼会館・中央斎場
長崎・諫早・大村・佐世保
株式会社メモリード　メモリード葬祭　検索　事務局　ペトロ　田川慶司
0120-44-6666

長崎大司教区現勢統計表（2017/12/31 現在）

地域……	長崎県	小教区……	72		信徒数	司祭・他	総数
面積……	4,132㎢	準小教区……	1	2015年	61,374人	868人	62,242人
県人口……	1,351,249人	巡回教会……	58	2016年	60,989人	899人	61,888人
カトリック……	61,235人(1)	集会所……	2	2017年	60,362人	873人	61,235人

小教区	信徒数			世帯数	洗礼		ミサ参加者			結婚				死亡
	男	女	合計		幼児	成人	主日	復活	降誕	信徒同士	混宗婚(2)	異宗婚(3)	他宗同士	
浦上	2,887	3,674	6,561	1,379	32	14	2,000	3,000	3,000	6	0	25	2	74
稲佐	388	456	844	276	1	2	180	230	280	0	0	1	0	18
城山	1,225	1,491	2,716	737	23	16	850	900	1,200	3	0	6	0	24
西町	1,034	1,253	2,287	758	15	5	450	800	800	1	0	4	0	32
本原	907	1,122	2,029	455	9	1	500	850	1,000	0	0	4	0	11
三ツ山	128	185	313	73	1	3	110	170	180	1	0	1	0	5
中町	523	734	1,257	441	5	4	500	700	700	0	0	17	1	34
神ノ島	206	264	470	169	3	1	190	250	300	0	0	1	2	6
木鉢	454	573	1,027	305	5	0	330	450	650	0	0	1	0	12
飽の浦	715	947	1,662	475	4	1	250	400	400	1	0	2	0	18
本河内	67	82	149	60	0	0	40	70	70	0	0	0	0	3
八幡町	153	222	375	111	2	1	80	110	120	0	0	1	0	3
愛宕	257	507	764	219	2	2	140	280	280	0	0	3	0	13
大浦	338	438	776	337	3	1	200	350	400	1	0	2	7	8
大山	88	151	239	89	5	0	95	140	140	0	0	0	0	2
小ヶ倉	315	439	754	249	1	0	190	380	350	0	0	0	0	6
深堀	562	608	1,170	320	8	1	400	600	600	1	0	1	0	6
香焼	203	241	444	168	0	0	130	250	250	0	0	2	0	1
馬込	131	217	348	194	0	0	200	220	220	0	0	0	0	9
滑石	1,747	2,078	3,825	644	10	17	600	800	900	8	0	11	0	29
出津	274	347	621	204	2	1	250	300	300	1	0	4	0	22
黒崎	360	401	761	212	4	3	270	350	450	1	0	2	0	13
時津	479	557	1,036	291	10	1	230	270	400	0	0	2	0	6
長与	473	500	973	312	4	2	200	300	400	0	0	2	0	3
東長崎	648	827	1,475	393	9	1	350	550	650	0	0	0	0	14
植松	795	944	1,739	496	7	4	500	700	850	1	0	5	0	15
水主町	302	321	623	205	0	0	150	200	300	0	0	1	0	9
諫早	423	515	938	282	4	3	300	350	400	0	0	1	0	8
愛野	10	36	46	19	0	1	16	30	60	0	0	0	0	0
島原	57	77	134	65	0	0	40	80	120	0	0	0	0	1
湯江	88	274	362	61	2	2	50	80	80	0	0	0	0	6
相浦	479	603	1,082	478	5	2	380	500	600	0	0	1	0	12
三浦町	487	687	1,174	395	11	11	450	600	800	5	0	3	2	22
鹿子前	302	372	674	185	1	1	320	400	420	0	0	1	0	3
俵町	310	349	659	230	2	2	170	240	350	0	0	3	0	13
大野	475	555	1,030	304	3	2	250	300	300	2	0	3	0	7
浅子	377	396	773	247	3	1	160	250	250	0	0	1	0	9
黒島	205	229	434	191	3	0	160	200	220	0	0	0	0	7
太田尾	166	113	279	103	1	2	80	200	200	0	0	0	0	4
神崎	829	882	1,711	363	5	1	400	800	800	2	0	1	0	14
褥崎	400	376	776	202	3	1	250	500	440	0	0	3	0	10
大崎	275	352	627	149	9	1	350	400	450	0	0	6	0	1
天神	220	262	482	125	1	1	110	150	220	0	0	0	0	3
早岐	241	294	535	170	1	0	150	200	250	1	0	1	0	6
佐々	299	371	670	241	3	1	200	300	300	2	0	2	0	8
平戸	314	387	701	220	5	0	250	300	350	1	0	3	0	9
上神崎	232	237	469	180	1	0	250	350	350	1	0	1	0	5
宝亀	162	194	356	88	0	0	130	180	200	0	0	0	0	5
田平	305	373	678	211	0	0	350	400	400	2	0	4	0	15
紐差	488	605	1,093	283	16	3	300	500	600	0	0	7	0	10
西木場	271	315	586	196	3	0	200	350	350	2	0	0	0	10
平戸口	170	194	364	109	2	0	90	100	110	0	0	0	0	8
山田	115	170	285	71	0	0	100	200	230	0	0	0	0	4
青方	137	166	303	110	2	0	100	150	150	0	0	0	0	6
大曽	186	177	363	128	1	0	150	250	250	0	0	1	0	3
青砂ヶ浦	498	547	1,045	360	5	2	250	400	400	1	0	2	1	16
丸尾	205	200	405	160	1	0	200	250	300	0	0	0	0	11
仲知	84	95	179	116	2	1	100	120	120	1	0	0	1	4
曽根	237	244	481	200	3	0	150	230	200	0	0	1	0	12
鯛之浦	327	418	745	196	4	0	200	350	450	0	0	0	0	9
浜串	188	199	387	209	0	0	220	250	250	0	0	0	0	10
桐	317	313	630	201	2	0	220	300	300	0	0	2	0	5
真手ノ浦	206	158	364	133	2	1	140	200	200	0	0	0	0	5
土井ノ浦	113	146	259	115	0	0	130	180	160	0	0	0	0	11
福江	558	570	1,128	460	4	1	300	450	450	0	0	1	0	21
浜脇	36	39	75	28	0	0	40	70	60	0	0	0	0	1
浦頭	153	239	392	173	0	0	230	260	260	0	0	2	0	11
奈留	190	190	380	145	2	0	100	200	200	0	0	0	0	10
水ノ浦	246	275	521	176	3	0	250	350	400	0	0	4	0	8
三井楽	97	183	280	130	0	0	200	250	250	0	0	0	0	4
貝津	63	87	150	60	1	0	60	90	90	0	0	0	0	1
井持浦	64	55	119	43	0	0	40	90	90	0	0	0	0	2
総計	27,264	33,098	60,362	17,883	281	121	17,971	26,020	28,620	45	0	152	16	746

(1) 長崎県内に居住する「司祭・他」と教区内の小教区に在籍する信徒の総計
(2) 混宗婚とは、カトリック信者とカトリック以外のキリスト信者との結婚
(3) 異宗婚とは、カトリック信者と非キリスト者との結婚

18年度予算など審議

教区顧問会

教区顧問会が3月22日（木）大司教館で開催され、2018年度予算案が審議、承認された。

信徒の高齢化と減少が続く中、経常収入は約800万円減となったが、支出の抑制により前年度繰越金が5400万円の見通しとなったため、総額としては前年比約800万円増の約5億8400万円となった。今年度は特別な行事がなく、支出に大きな変動もない。そのため、予備費が1700万円増の1900万円となった。予算としては次年度繰越金を立てていないので、来年度予算を編成するためには、今年度の予算執行において支出削減の努力が求められることになる。

また、『長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産』に関する報告があり、今年7月初旬に世界遺産登録があった場合、教区としては大司教がメディアからの取材に対応する以外は特に何かをする計画がないこと、各構成資産において、自治体などから要請があった場合には、その地区・小教区の判断で対応することが確認された。

子どもと女性の人権相談室

最初のご相談はお電話でお願いいたします。詳細は各小教区に配布されているポスターをご参照ください。

場所　カトリックセンター別館
連絡先　095・865・7829
時間　月～金　10時～16時
＊第3月曜日と休日（祝日・教区本部事務局休業日など）を除く

相談室室長　マリア 福田真理

クリスマス募金、一菜募金の支援報告

教区評議会

昨年12月1日から今年1月15日にかけてクリスマス募金の協力を呼び掛けた長崎教区評議会は、3月31日までに集まった491万2010円を、昨年度の繰越金76万3303円と合わせて次の被災地や困窮者の支援のために送金した。

▼長崎ホームレスを支援する会 50万円▼長崎ダルク 50万円▼福岡美野島司牧センター 50万円▼東京山友会 50万円▼大阪旅路の里（釜ヶ崎）50万円▼ドリームカムホーム青少年自立援助 50万円▼生活困窮者への支援として教区福音化推進部へ 50万円▼佐世保隣人愛の会 20万円▼声の奉仕会・マリア文庫 10万円▼長崎カトリック聴覚障害者の会（長崎と佐世保）各10万円▼聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会 10万円▼モナの会 10万円▼入管収容者への支援 10万円▼一粒の麦の会 10万円▼社会福祉法人一粒の麦の会「ひまわり」10万円▼フードバンク長崎 10万円▼東日本大震災復興支援（大槌ベース）2017年度分 50万円。

また同評議会は、一菜募金の支援先を次のように決め、送金した。

▼鹿子前教会信徒の火事見舞い 15万円▼植松小教区（対馬）信徒の火事見舞い 15万円▼稲佐教会信徒の火事見舞い（2件）各15万円。

ぶどう園

▼「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」世界遺産登録を願うシンポジウム　5月12日(土)13時30分～16時、長崎ブリックホール国際会議場。参加無料。十八銀行、禁教期のキリシタン研究会主催。長崎大司教区など後援。事前申込みが必要。問合先・十八銀行地域振興部（小畑）TEL095・827・8609

▼井持浦ルルド祭　5月13日(日)13時、井持浦教会。

▼教区司祭黙想会　①5月15日(火)～18日(金)、大司教館。②5月22日(火)～25日(金)、イエズス会立山修道院。

▼一日の祈りのつどい　5月19日(土)9時15分～16時、城山教会。参加費500円。聖書、筆記用具、昼食を持参。みつあみの会主催。各教会に配布の案内を確認の上、申込み。

▼雲仙殉教祭　5月20日(日)、雲仙メモリアルホール。13時開会、13時30分ミサ、15時巡礼。

▼教区結婚講座　毎週水曜日（6月6、13、20、27日、7月4日）の計5回。19時～20時45分。カトリックセンター。受講費1人5千円。定員40人。問合先・教区家庭委員会TEL095・842・4450

▼公開聖書講座「マタイによる福音書を読む――山上の説教」　6月24日(日)13時～16時、カトリックセンター。講師・古里慶史郎師（フランシスコ会）。参加費500円。申込先（6月17日〆切）・教区生涯養成委員会FAX095・841・7732

感謝

―香典返し―

●長崎カトリック神学院
●山田 涼様（黒崎）
故マリア山田美代子様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

大浦天主堂敷地に博物館

4月1日から開館 ― 長崎教区

カトリック長崎大司教区は大浦天主堂敷地内に『大浦天主堂 キリシタン博物館』（諸岡清美館長）を正式に開設し、4月1日（日）13時から関係者らを招いて開館式を行った。

同博物館は、国指定重要文化財・旧羅典神学校と県指定有形文化財・旧長崎大司教館の2棟を活用し、〝信徒発見〟の歴史的出来事を思い起こす言葉「ワレラノムネ アナタノムネトオナジ」をテーマに、キリシタンに関する資料などを展示している。かつて大浦天主堂内に掲げられ、このほど移設された「元和の大殉教」の絵画や、先の2棟の設計を手掛けたド・ロ神父の十字架とロザリオ、高山右近の書状（複製）など、計130点余をみることができる。

開館式には、教区関係者や博物館開設への協力者・支援者を含む招待者の方々が参列し、高見三明大司教による同館の祝福を見守った。大司教は説教の中で、「この博物館を訪れる方たちに、キリスト教の歴史と教えについて少しでも理解していただき、興味深く観ていただくことを願っています」と話した。

右上の写真は開館式の様子。テープカットは、左から株式会社丹青社の青田嘉光会長、髙見大司教、林田殉二教区評議会議長。▲上の写真は、展示資料を説明する大司教と観覧する招待者ら。

教区評議会副議長で滑石教会信徒の松山勝則（よしのり）さんは、「開館したことは信者でない方々へのピーアールとなり、展示内容も分かりやすくて、いいと思いました。一信徒としては、今後の展示、企画の充実に期待したいところ。普段入ることのなかった建物の中の構造も今回見ることができましたし、今までは国宝ということで観光の方が大浦を訪れていたと思いますが、天主堂の成り立ち、教会の歴史を紹介する役割も（博物館が）担い、開館は有意義なことだと思います」と語っていた。

みことばにふれて 148

今田 昌樹 神父（城山教会）

去る3月21日のことです。同級生の息子さんが司祭に叙階されるという、生まれて初めての体験をしました。私はその叙階式に与ることができたばかりか、図らずも、わが子を見守る彼女の姿がよく見える司祭席の一番前の列に座ることになったのです。自分たちがそんな歳になったのかという感慨もありましたが、それよりも何よりも、式の間ずっと涙を流しながら祈る同級生の母親としての姿がいやが応にも目に入ってきて、いろいろ考えさせられずにはおられませんでした。

息子聖アウグスチノの回心のために長年涙を流しながら祈りをささげた聖モニカの話はよく知られていますが、そればかりでなく、自分のことよりも人のことを、またこの頼りない私のことをいつも心配していた母の姿が思い出され、そして私のため、私たち司祭のために熱心に祈ってくださる多くの方々のことが、さらには教会という家族のお母さんであるマリアさまのことが、一度に幾重にも重なって心に浮かんできたのです。

「いのち」に仕え、また平和のために祈る。それは男性女性の区別を超えて、およそすべての人の大切な使命に違いありませんが、自分の体に子を宿したことのある女性はかりでなく、たとえ直接子を宿す体験がなかったにしても、母となる可能性を身に帯びた女性は、存在そのものが「いのち」を抱き、「いのち」に寄り添うように造られているのでしょう。「いのち」という賜物に仕える使命がすべての人のものであっても、理屈が先行しがちな男性に対し、女性はまさに身を挺して「いのち」を守るのです。

しばしば涙まで流しながら、わが子のために身も心も一つにして祈る母親の姿の向こうに、今もいつも私たちのために祈っておられるマリアさまの姿が浮かんできます。福岡の浄水通教会聖堂を飾るステンドグラスの中に、教会の誕生の時、使徒たちに囲まれ、共に聖霊に満たされて祈るマリアさまの姿（使徒言行録1章14節）を描いた一枚がありますが、「いのちの主」であるイエスさまに結ばれ、「いのち」に仕える使命を委ねられている教会という家族の真ん中にマリアさまがおられ、絶えざる祈りで支えてくださっているのは何と心強いことでしょうか。今年は5月20日に聖霊降臨を迎えますが、教皇さまの呼びかけにより、「教会の母聖マリア」という信仰がこの大祝日の翌日に典礼によって記念されるようになったのは嬉しいことです。

新刊良書

★教会だより カトリック仁川教会報に綴った8年間

著＝水浦征男

著者は、今年3月に司祭叙階50周年を迎えたコンベンツアル聖フランシスコ修道会司祭。本書には8年間主任司祭を務めた仁川教会の教会報『タウ』に掲載した巻頭言96篇が収録されている。

「…（書中の）五島の教会にまつわる話題は、筆者が少年期を過ごした頃の記憶です。…なんとか50年を司祭として生きて来られたのは、故郷、楠原の皆さんの尊い犠牲とお祈りのお陰と感謝しています」（『あとがき』から）。税別600円。聖母の騎士社。

テレジア 大山ヒサヨ修道女

（お告げのマリア修道会）

3月4日、聖マルコ園で逝去。91歳。1927年長崎市生まれ。42年大山修道院に入会。57年初誓願、66年終生誓願宣立。

入会後は姉妹と共に教会奉仕、農耕、炭焼き、精米業などに従事し、72年からは大山へき地保育所の庁務員として勤務した。院長を退いてからは調理や農耕に励み、言葉少なに多くの人を真心こめてもてなした。聖マルコ園で5カ月を過ごした。

葬儀ミサ・告別式は3月6日、大山教会で行われた。

ドミニカ 大窄カズ修道女

（お告げのマリア修道会）

3月5日、聖マリア病院で逝去。93歳。1925年五島市生まれ。49年三井楽修道院に入会。59年初誓願、66年終生誓願宣立。

保育園や修道院の調理、司祭館奉仕者として多くの人の喜びとなった。ナザレのマリアのように、目立たない、隠れた働きを通して人々に仕え、協力するシスターだった。晩年はみみらくの里に入所していたが、肺炎のため聖マリア病院に入院した。

葬儀ミサ・告別式は3月7日、三井楽教会で行われた。

使徒ヨハネ 田邊 徹 神父

（鹿児島教区司祭、田平教会出身）

3月5日、腎不全と上腸間膜動脈血栓症のため入院先の病院で逝去。91歳。

1926年生まれ、田平教会出身。51年3月28日、山口愛次郎司教により浦上教会仮聖堂で、鹿児島教区初の教区司祭として叙階された。同年4月に鹿児島教区に着任し、教区の基礎作りに東奔西走した。59年6月瀬留教会助任、同年12月古田町助任、60年12月名瀬助任、68年1月大笠利主任、70年11月名瀬主任、72年4月ザビエル主任、81年4月指宿主任、90年4月名瀬主任、96年4月種子島主任、98年4月志布志主任代行、2001年4月種子島主任。03年3月に心筋梗塞を起こし、治療に専念。同年11月引退。05年純心聖母会本部（長崎市）、16年鹿児島教区に移住。

葬儀ミサ・告別式は3月8日、郡山健次郎司教の司式により、鹿児島教区カテドラル、ザビエル教会で行われた。

フランシスカ 中山和子修道女

（けがれなき聖母の騎士 聖フランシスコ修道女会）

3月12日、小長井町にある病院で逝去。99歳。1919年韓国蔚山（ウルサン）市生まれ。42年別府教会で受洗し、49年に入会。53年初誓願、59年終生誓願宣立。

60年、修道会の初代会長として会の創立者ミロハナ師と共に会員の養成や県の要望に応えて、障がいのある方々の施設「みさかえの園」を創設。その後も佐賀、大分に障がい者施設、老人ホーム、幼稚園などを創設し、小さく貧しい人々にいつも優しく接していた。

ミロハナ師の故郷であるポーランドや韓国、ベトナムからも志願者を受け入れ、聖コルベの精神である「けがれなき聖母の騎士会を全世界に広めるために働く」ことを止めない生涯であった。

「私は修道女として生き大変幸せでした。出会ったすべての人に、ありがとう、感謝」

葬儀ミサ・告別式は3月14日、修道会本部聖堂で髙見三明大司教司式により行われた。

ヨゼフィナ 浦田ミユキ修道女

（純心聖母会）

3月28日、長崎市の聖フランシスコ病院で逝去。102歳。

1915年佐世保市生まれ。42年入会。44年初誓願。53年終生誓願。

戦中戦後の大変さの中で、会の基礎作りのために創立者と共に苦労の多い時期を体験した。終生誓願後は、家庭科の教諭としての職務とともに、鹿児島、川内（鹿児島）、小野田（山口）、ときわ荘、恵の丘（長崎）の各修道院で院長を務めた。深い信仰のうちに生きる姿は、もの静かでやさしい母親のような存在として皆に慕われていた。2009年4月からロザリオの聖母修道院（長崎）で療養していた。

聖金曜日の3月30日、ことばの祭儀による葬儀と告別式が本部聖堂で行われた。

マイホームの美容と健康に！
（有）山川塗装
有限責任中間法人　全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役　ペトロ　山川　進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330　FAX(0956)49-8729

カトリック佐々教会納骨堂のご案内
車を横付けできる明るい納骨堂です

永代使用料（50年）：納骨壇（大）70万円
同（小）30万円
管理費（50年）：10万円（税別）
お問い合わせ・お申し込み
カトリック佐々教会納骨堂管理委員会
〒857-0353　北松浦郡佐々町沖田免1-1
電話 0956-59-5559／Fax 0956-59-5560
佐々教会納骨堂　検索

ご先祖に心より感謝を・・・
材石治明
長崎本店　長崎市城栄町13-1　電話（095）846-3598
大村店　大村市民霊園内　電話（0957）50-3008

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175
医療法人　平田クリニック
院長　ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり